



令和 7 年 9 月発行 発行者：砺波カインヨ倶楽部 代表幹事：高畑邦男 事務局：砺波市秋元 167 高畑邦男方

電話 090-4661-8827

## 14歳の挑戦を受け入れて

近年屋外での遊びが少なくなる中、屋敷林を後世に継承する一手として砺波カインヨ倶楽部は、令和 7 年度砺波市「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の趣旨に賛同し、市内中学校2年生とともに、保存樹(保存樹林)の幹周り・樹高・現在の状態の調査、屋敷林の掃除、カインヨを使った遊具作り(屋敷林で遊ぼう)作業を行いました。

- 〈挑戦日時〉 令和7年6月30日～7月4日(5日間)  
8時30分～15時
- 〈参加者〉 砺波市立庄川中学校 2年生(14歳) 5名  
砺波カインヨ倶楽部 6名
- 〈作業内容〉
- ① 令和7年6月30日～7月1日  
・ 保存林調査・調査結果整理
  - ② 令和7年7月2日  
・ 一般廃棄物処理手数料減免申請書を作成し、砺波市生活課に提出  
屋敷林掃除(武部由美子宅)  
・ 清掃した物は、クリーンセンターへ運搬処理
  - ③ 令和7年7月3日  
・ 屋敷林の樹木を利用した遊具の設置
  - ④ 令和7年7月4日  
・ 14歳の挑戦者達に、砺波の樹木の魅力を継承すべく 柏樹直樹さんの案内で市内屋敷林等を6ヶ所見学

① 令和7年6月30日～7月1日

【保存林調査・調査結果整理】

前年度の未確認箇所、不備箇所の調査、計測

調査方法

幹周り測定 地上1.2mの幹周り

樹高測定 和田健先生の簡易測定器使用

- ・ 樹木調査班 カインヨ倶楽部2名  
+ 14歳の挑戦者3名
- ・ 調査整理班 カインヨ倶楽部1名  
+ 14歳の挑戦者2名

※調査班・整理班は交代で行いました。



樹木の高さ測定

(樹木調査班)

非常に暑い日であり、脱水症状や熱中症に、注意して作業をしました。

(アイスクリームで体温調整しました)

帽子の準備が必要でした。



測定結果確認

(調査結果整理)

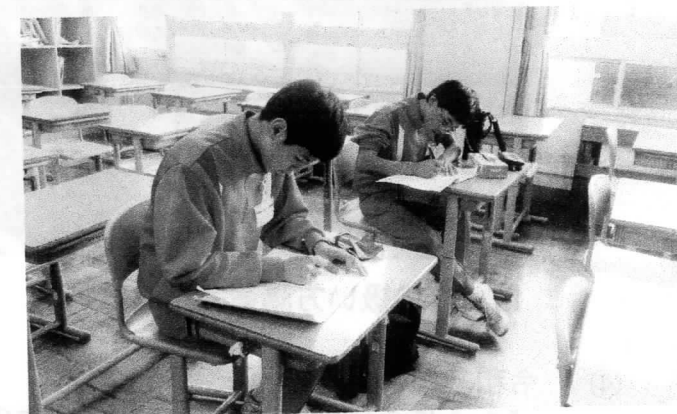
前年度の整理、今年度の整理  
パソコンにての作業。

若いという事の特権ですね。

作業の処理スピードが早く

非常に素晴らしい。

私の倍以上の能率、二日目は  
早々に完了しました。



早々に本日のレポート作成

② 令和7年7月2日

【一般廃棄物処理手数料減免申請書作成し砺波市生活課に提出受理終了】

子供達が、生活課の職員に説明し受理していただきました。

【即現地へ行き、屋敷林掃除(武部由美子宅)】

子供達は、当初熊手と格闘しましたが、上手く作業をこなし完了しましたる  
力仕事は、カインヨ倶楽部の負け(グリーンバックの運搬・トラックへの積み込みは、素晴らしい)清掃回収した落葉は、90Kgでした。



武部宅の掃除(この作業は、カインヨ倶楽部の勝ち)  
使用した手袋は、お持ち帰りしていただいた  
(※ 家に帰ったら草むしり、木の世話をする事を条件として)

③ 令和7年7月3日

【屋敷林の樹木を利用した遊具の設置】

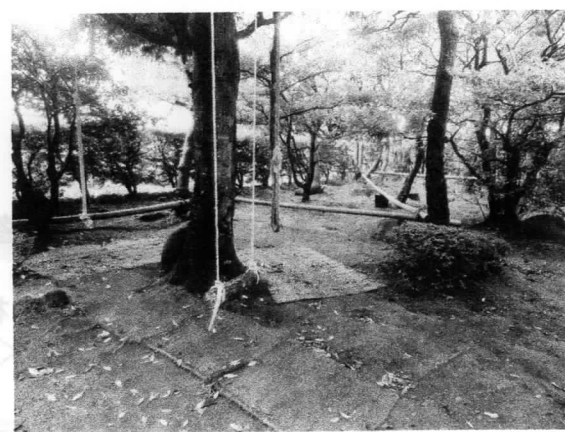
使用する竹（MAX・7m）をうまく運搬、樹木間にセットし、ロープで固定（箱結び・角結び）、又男結びも教えました。

最後に遊具全部の安全点検（遊んで点検）をしました。

結果ブランコのロープが悪いことが判明、後日新品のロープに交換しました。



ロープの扱い方講習会



ブランコ・竹渡完成

④ 令和7年7月4日

【14歳の挑戦者達に、砺波の樹木の魅力を継承】

柏樹直樹さんの案内で6ヶ所

- |         |        |                       |
|---------|--------|-----------------------|
| 1・藤井正昭宅 | チャンチン  | 砺波市に1本                |
| 2・高松清宅  | ケヤキ    | 砺波市の保存樹               |
| 3・水上隆志宅 | ウラジロガシ | 庭全体を覆っている             |
| 4・清原章夫宅 | 屋敷林    |                       |
| 5・大島石三宅 | スギ     | 砺波市では2番目の大杉           |
| 6・厳照寺   | スギ     | 本堂前2本のスギの大樹、富山県の天然記念物 |



ウラジロガシの大きさに（＼(◎o◎)／！）

水上隆志宅のウラジロガシ



屋敷林の中は、こんなになっているのだ

清原章夫宅 屋敷林



厳照寺 スギ  
本堂前2本のスギの大樹  
富山県の天然記念物

14歳5名の記念写真

（子供達からの感想文）

私は、砺波に素敵な木々が沢山あることを知らなかった。僕らが当たり前にあると思っている木は、誰かが管理していて当たり前ではないと思いました。これからは、当たり前に感謝しながら生活していきたいです。将来は、その当たり前を守るような仕事に就きたいです。

今年もカイニヨの中から子供達の声が聞こえました

『屋敷林で遊ぼうは、令和元年から行っています。』  
今年度で7年になります。

砺波市の企画で『親子バスツアー』が最初の行事でした。  
出前講座での遊びの時間も設けていただき、子供達はいろんな経験を通して、  
屋敷林の良さや役割を感じ取ったと思います。



カイニヨ倶楽部の自己紹介



子供達は、元気に遊びました



# カインヨで遊具作り

庄川中2年 14歳の挑戦

## 「子どもたち楽しんで」

高畑さん宅にはマツやスギ、カシなど約60種類500本ほどの木がある。次世代に

砺波市で屋敷林(カインヨ)の保全に取り組む「砺波カインヨ倶楽部」で職業体験14歳の挑戦」を行う同市庄川中学校2年生の4人は3日、同倶楽部代表幹事の高畑邦男さん(75)宅で木や竹を活用した遊具作りを体験した。生徒たちはカインヨに親しみながら「子どもたちに安全に楽しんで遊んでもらいたい」と思いを込め、作業に汗を流した。

(黒川舞弥)

内に、カシの木にロープや木の板を付けたブランコやターザンロープ、竹や丸太の上を渡り歩く遊具を設けている。

遊具は冬の間、雪に備えるため取り外すが、夏休みなどには地元の園児や小学生らが遊びに来ている。この日は生徒の手を借りながら設置し、カインヨで遊べる空間を整えた。

生徒は、高畑さんが春に伐採した竹を運び、竹渡りができるように配置したり、ブランコを取り付けたりした。遊具が仕上がると実際に試して出来栄を確認。同倶楽部のメンバーから「男結び」や「箱結び」といったロープの結び方なども教わった。

森田晃大さん(13)は「ロープの結び方が難しかったけど、教えてもらってできるとやりがいがある」と達成感を口にした。

高畑さんは「少しでもカインヨのことを分かってくれれば、継承の一手になればいい」と語った。



竹の縛り方を学ぶ生徒＝砺波市秋元

屋敷林で遊具づくり 砺波・庄川中2年

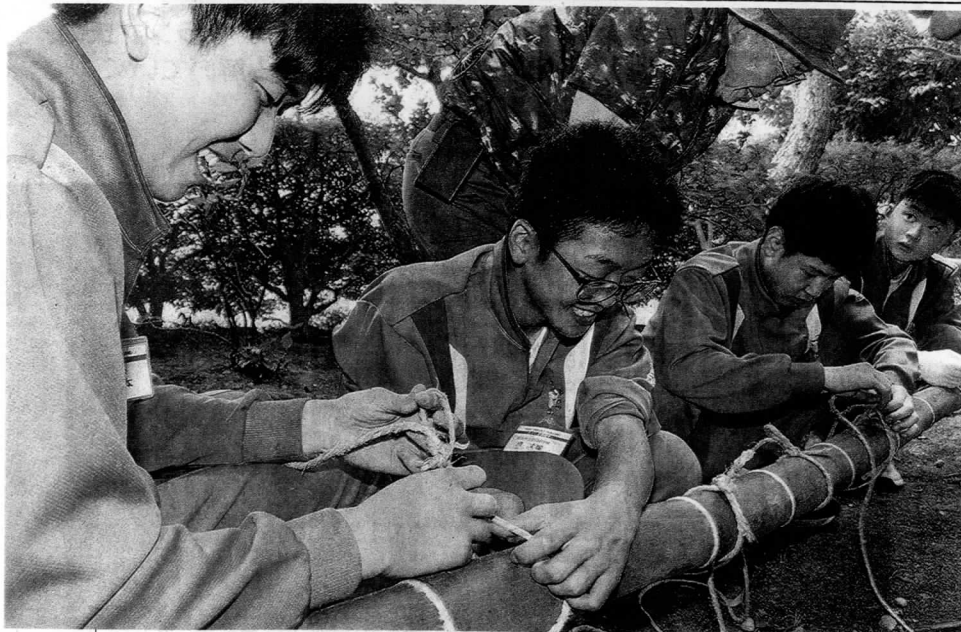
砺波市庄川中の2年生4人が3日、同市秋元で屋敷林を活用した遊具を作った。屋敷林の価値啓発に取り組む「カインヨ倶楽部」が14歳の挑戦に合わせて企画した。体験場所となったのはカインヨ倶楽部の代表幹事を務める高畑邦男さん宅。マツやスギ、タケなどを生かしたブランコ、ターザンロープなど遊具が設置しており、地元の園児が訪れるなど遊び場になっている。

生徒はタケを組み合わせた遊具「竹渡り」作りや、ブランコの台座の取り替えなどに取り組んだ。竹渡り作りでは、竹を庭の中に運び込んだ上で、ロープを使って2本のタケを結んだ。高畑さんらカインヨ倶楽部の会員が手伝った。

# 事 記 載 掲

北 陸 中 日 新 聞

(第3種郵便物認可)



## 竹遊具づくり 14歳が挑戦

砺波市内の4中学校の2年生が勤労体験する「社会に学ぶ14歳の挑戦」で、ボランティア団体「砺波カイニヨ倶楽部」で活動している庄川中学校の男子生徒4人が子どもの遊びに開放しているカイニヨ（屋敷林）のある同市秋元の個人宅の庭で、竹渡りやブランコなどの遊具づくりに取り組んだ。

（武田寛史）

「カイニヨ倶楽部」庄川中4人

庭は、同倶楽部代表幹事の高畑邦男さん（75）が所有。マツやスギなど500本の屋敷林を管理している。倶楽部は毎年、庭に手づくり遊具を設置して夏休みなどに子どもたちに開放している。

生徒らは、つないだ竹の上をバランスを取りながら渡る遊具に使う竹を運び、縄でしっかりと縛って固定した。また、木の枝に結び付けられたロープにブランコの座板を取り付けた。

倶楽部メンバーから角結びや箱結びなどの手ほどきを受けた森田晃大さんは「結び方は難しいけど教えてもらってできるとやりがいを感じる。子どもが竹の上を歩いても安全なようにしっかりと縛りたい」と作業に汗を流した。

倶楽部は屋敷林の掃除や見学会など屋敷林を次世代に継承する活動を続けており、高畑さんは「縄の結び方は役に立つ。生徒に屋敷林を知ってもらって継承につながれば」と話した。

同市では6月30日～7月4日、市内中学生421人が事業所・団体など142カ所で勤労体験した。

竹を縄で縛る結び方を学ぶ生徒ら＝砺波市秋元で

## カイニヨに遊び場

砺波・南般若 児童が体験



屋敷林の中で遊ぶ児童＝砺波市秋元

屋敷林の中で木製遊具を楽しむ体験教室が8日、砺波市秋元の高畑邦男さん宅で開かれた。砺波東部小の児童約20人がターザンロープやブランコ、竹渡りなどに挑戦した。

南般若公民館が「こども

夏休みすぐ前のこの遊び教室」と題して企画した。屋敷林の価値啓発に取り組む砺波カイニヨ倶楽部（砺波市）で代表幹事を務める高畑さんが自宅庭に設けられた遊具を開放した。子どもたちは大木につかまり、上を登ったり、友だちとブランコをこいで歓声を上げた。砺波東部小5年の塚田菜史さんは「木陰の下は涼しくて気持ちがいい」と話した。

北 陸 中 日 新 聞

富 山 新 聞